



ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む  
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよ たす あ 仲良く助け合っ  
たの せいかつ ねが ねが 楽しく生活していくことを願って、活動  
つづ っづ 続けています。

# くろするろ〜ど

2019/1月号

かいほうし  
会報誌

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★

## 〜サロン月間カレンダー1月〜



## 「今年も盛況、サロンの集い」

### ■文化交流活動

- 1月11日(金) 午前10時30分〜12時  
「絵手紙」15名・はがき代100円  
場所：サロン第1会議室・締切り 1/9
- 1月25日(金) 午前10時30分〜12時  
「生け花教室」15名・花代500円  
場所：サロン第1会議室・締切り 1/24

以上対象はサロン・学習者とボランティア

★申し込みと詳しいことは、サロン事務局まで。

### ■「定例勉強会」

- 1月16日(水) 午前10時〜12時  
場所：サロン第1会議室  
テーマ：「教案作りにトライしてみよう！」  
〜「みんなの日本語」4・5課を素材にして〜  
グループごとに教える項目を決め教案にまとめ、それを発表していただきます。

対象：サロン・ボランティア(学習者も参加可)

★申し込みと詳しいことは、サロン事務局まで。

### ■「東京外大連携プロジェクト・生活便利帳報告会」

- 1月18日(金) 午前10時半〜12時  
場所：サロン第2会議室(学習会の部屋)  
「公共施設」というテーマで進めている今年度のプロジェクトの、学生側からの報告と意見交換会を行います。

対象：サロン・ボランティアと学習者

★申し込みと詳しいことは、サロン事務局まで。

### 水曜午後ボランティア 濱口 晃

12月7日、府中国際交流サロン企画部主催の恒例の「サロンの集い」が開催された。参加者総勢242人が「プラッツ」バルトホールに集まり国際交流を深める催しとなった。

11カ国の料理24品目が前日より調達され、当日テーブルの上に並びました。中国料理で口水鶏(よだれどり)というおもしろい名前の料理もありました。パーティーは和やかな雰囲気でも盛り上がりを見せ、市民をはじめボランティア、学習者が一体となり、学習者によるアトラクションも実施され楽しい一時を過ごすことが出来ました。

最近、サロンに姿を見せない学習者の参加もあり、懐かしい出会いを楽しんだり、又、アトラクションの実施には会場の皆さんが舞台の演芸に集中して写真を撮ったりして大変満足感を得たという表情でした。ボランティアさんの話の中に、奥さんも一緒に参加してその奥さんが主人と勉強している学習者の人と話が出来てとても良かったと喜んでいたり話もあり、奥さんを連れて来てよかったです話していました。

国際交流サロンの目標であるボランティアと学習者相互の文化を理解し合い交流を深めていくことが当集いの目標であり、その礎になると思います。

そしてその目的が少しでも達成出来たことは関係者皆さんの努力とと思います。おつかれさまでした。

ふちゅうしりつ だいなしょうがっこう ほうもん  
「府中市立第七小学校への訪問」

げつようごぜん とりいあきひさ  
月曜午前ボランティア 鳥居明久

せ かい ぶん か  
世界の文化

うつく ふゆ ゆう  
「この美しい冬の夕べにこんにちは！」

ファツマ カラクシュ (トルコ)

12月12日(水)に、府中市の仲介による、第七小学校と国際交流サロンとの“国際交流会”がありました。主役は、七小の6年生(6年生は2クラスでした)の児童とサロンの学習者で、6つのグループに分かれ、児童10人余り(児童たちは途中で全員入れ替わりました)とサロンの学習者とで進められました。アガタ・クラスカさん(フランス)が急用のために参加できませんでしたが、予定通り6グループで行いました。

参加した学習者およびボランティアは、以下のとおりです。孟飛さん、邢千里さん(中国。ボランティア:水元さん)、劉歡さん(中国。ボランティア:関口さん)、クボタ・サンサニ・ピムパフさん(タイ。ボランティア:伊野さん)、ビルマさん(フィリピン。ボランティア:平松さん)、ラフマツさん(インドネシア。ボランティア:鳥居)でした。

交流会は、児童たちが「はじめの言葉」を述べ、学習者とボランティアが自己紹介をして、始まりました。児童たちはコマ回し、しりとりなどの伝統的な遊びや日本文化の一端を紹介し、サロンの学習者は自分の国の文化や習慣について話しました。学習者が子どもたちの遊ぶ様子の写真を見せて、その遊びを紹介した時に、「それ、“ロンドン橋 落ちた”と似ている」と言ったり、逆に、「へーえっ」と、彼我の違いに驚いたり、それぞれに自ずからなる“国際交流”が生まれていました。

交流会の後は、学習者とボランティアが児童たちと一緒に教室で給食を食べました。給食中も、給食後も、児童たちがなんとまあ、にぎやかだった



ラフマツさん(左)と鳥居さん

こと。60年近く前を思い出し、自分たちもこんなものだったのだろうと、タイムスリップも楽しませてもらいました。

わたしはファツマです。2年半前にトルコのイスタンブールからきました。主人は日本人なので日本で住んでいます。1年半前に府中公園で桜まつりでサロンのボランティアさんと会いました。この日からサロンはわたしの第二の家です。折り紙、生け花、書道、浴衣コースに参加した今も日本語を勉強しています。

でも今日は食べ物について話したいです。

中国、ベトナム、ウイグル、フランス、色々国の料理を作りました。私は今日3食を調理した。ポテトパイ、ニンジンボール、ミートボールを作りました。

私たちは、2日間、外国人と日本人ボランティアさんと一緒に一所懸命頑張りました。テーブルのおいしい食べ物を見ましたね。私は少し疲れました。でも、この食べ物全部終わったら、疲れた人たちは幸せになります。楽しんでください！

編集部注: この文章は、ファツマさんが、「サロンの集い」に料理担当として参加された学習者を代表して挨拶されたものです。



ニンジンボールを手にするファツマさん



## 「好奇心あふれる楽しい仕事です！」

2018年4月号の『学習者紹介』コーナーで紹介させていただいたアニカ ゴデックさん（ポーランド）が、4月から府中市経済観光課の嘱託員として活躍しています。どんなお仕事をしているかお聞きしました。

「基本的には、週4日間朝9時から午後5時まで働いています。府中市のホームページやインスタグラム、フェイスブックなどで情報発信をして府中市をPRするのが主な仕事です。フォロワーの数や、『いいね！』の数の統計をチェックしたり、コメントに返信したり、インスタグラムのコンテンツをチェックしたりします。PRに使うための新しい写真を撮りに行ったり、写真の編集をしたりしています。

月2回程度ある府中市内で行われるガイドツアーに参加して、感想を記事にまとめて、掲載しています。

市役所を訪れた外国人にお会いした時は、英語で通訳もしています。

最も面白いお仕事は、府中市のたくさんのお祭りやイベントに参加することです。参加して出会う全てのことは、私の人生にとって初めての出来事で、いつも好奇心にあふれています。

府中市のPR活動をしながら、2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピックに携われるのは、一生に一度のことで、それを聞いたときは、胸の躍る思いがしました。

府中市は、大國魂神社をはじめ、公園や文化的な歴史にあふれる博物館など、たくさん魅力にあふれた市です。

大國魂神社の「くらやみ祭り」は、府中市のもっとも有名な伝統あるお祭りです。

また、エキサイティングな競馬を観戦できる東京競馬場もあります。

このような魅力あふれる府中市のPR活動にかかわれるお仕事は、いつも私の好奇心を刺激してくれます。」  
(編集部)

## 私のふるさと ～ 9 ～ 「母国スロバキア」

ヘスコヴァー ガビカ（スロバキア）

私の母国のスロバキアについて説明させていただきます。スロバキアは小さい中央ヨーロッパの国です。スロバキアの地理の授業では中央ヨーロッパの国と習いますが、日本の地理の授業ではスロバキアは東ヨーロッパになるようです。スロバキアはヨーロッパの真ん中からちょっと右側（東側）にあり、心臓と同じくらいの位置なので、「ヨーロッパの小さい心」と言われています。

スロバキアの首都はブラチスラバ（Bratislava）です。西の方、すぐ近くにオーストリアの首都、ウィーンがあって、南の方にハンガリーの首都、ブダペストがあります。そのおかげで、観光客たちは簡単に首都を三か所見られるのです。

スロバキアは内陸の国なので、海がありません。しかし、日本と同じ、季節が四つあります。その季節は日本に似ていますが、夏の時には湿度がぜんぜんなくて、冬の時には日本よりちょっと寒くなります。

スロバキアには厳かな山々があるおかげで、冬のスポーツがよく流行っています。それに湖や池などが豊富にあって、夏の時様々な水の遊びとスポーツができます。観光客たちはスポーツやきれいな自然などを楽しみに来ますが、歴史に興味を持っている人々は伝統的なお城と教会をよく見に来ます。

スロバキアの国語はスロバキア語で、人口は約550万人です。小さい国ですが、様々な方言と伝統的な服装がたくさんあります。残念ながら、民族服は日常生活ではめったに見られません。日本では着物を着ている人々をときどき見られますが、スロバキアにはイベントや祭りのときしか見られません。特に民族舞をしているダンサーたちはきれいな民族服を着ています。

スロバキアにはたくさん面白い祭りやイベントなどがあって、一番大事なのはクリスマスとイースターです。なぜかという、両方はキリスト教の大切な祝日ですから。2004年の調査によるとスロバキアの宗教はカトリックが最も多く 60.3%を占めます。

その影響で、キリスト教のイベントを祝う人々が多いわけでは

イースター（復活祭）についてちょっと面白い習慣を紹介させていただきます。イースターは4日ほど続き、月曜日の朝、スロバキアの男性たちは女性たちに、バケツいっぱいの水をかなり大胆に浴びせます。当日までに愛情を込めて編んだ柳の枝で作った鞭で彼女たちを打つことで彼女たちの健康、強さ、若さ、幸せ、美を祝福します。そしてそのお礼として女性たちは、お酒のショット等や卵などを男性たちに手渡します。そのあとで、宴会が行われて、家族と一緒にみんなでイースターを楽しんでお祝いします。

女性の皆さんはこんな習慣についてどう思いますか。イースターのときスロバキアに来たいと思いませんか。

まだまだ、スロバキアの面白さについてもっと紹介したいんですが、いっぱい話をしたら、きっと時間がかかるでしょう。もし興味があれば、自分で調べてみてください。もしくは、私のことをどこかで見かければ、ぜひ声をかけてくれませんか。スロバキアと日本について一緒に話しましょう。



タトラ山脈と麓の湖



ブラケスタヴァ城（内部に国立歴史博物館あり）

# みな 皆さんよろしく◇学習者紹介

劉 歆 さん（中国）



## 「幼なじみと結婚しました」

中国陝西省西安市から2014年12月来日しました。結婚して来日した当時ご主人は広島で大学に行っていました。最初は広島に住み、ご主人が日本の会社に就職して島根県松江市に引っ越し、転勤で2018年府中にきました。

現在の個別の机と違って、当時中学校の机は長い机を二人で使っていました。その時同じ机を使っていたのが、ご主人でした。ですから、中学時代ずっと一緒だったわけです。

劉歆さんは、大学でマーケティングを勉強しましたが、すぐに結婚したので、仕事はしませんでした。日本に来てから、アルバイトでレストランの洗い場、スーパーのレジなどをしましたが、現在は免税店で楽しく化粧品を売ったりしています。

現在、2歳のお子さんの保育園への送迎は、ちゅうバスを乗り継いで時間がかかりますし、週4日間のアルバイトとで、忙しい生活をしています。

趣味は読書と、時間がある時は、5年間位習った中国国絵（中国画）を描くことです。

広島と松江にも府中国際サロンと同じような日本語の学習会があり、そこで勉強して日本語検定N2も受かり、車の免許も取りました。これからもっと日本語を勉強して、N1をとり、会話ももっと上手になって、ずっと日本に住んでいたいとおっしゃっています。（堤 林）



はいくずいそう さいしゅうかい  
～俳句随想～ 4(最終回)

ふゆ おも  
「冬に想う」

きんようよる あかぎ きよえ  
金曜夜ボランティア 赤木喜代恵

ふゆ りつとう りつしゅんぜんじつまで きゅうれき じゅうがつ じゅういちがつ  
冬は立冬から立春前日迄、旧暦の十月、十一月、  
じゅうにがつ しんれき じゅういちがつ じゅうにがつ いちがつ  
十二月、新暦の十一月、十二月、一月である。

ふゆ  
冬の句を五句(赤木喜代恵作)挙げる。

あやま とし かんづばき  
過ちは 歳にはあらず 寒椿

やまねむ げんしよ こえ き  
山眠る 原初の聲を聴いている

あさき かみがみ つきこお  
荒ぶれる 神々もいて 月氷る

ちようじゆ いきるすべ知る ふゆ くさ  
長寿よし 生きるすべ知る 冬の草

ほおおちば ちち いたん う  
朴落葉 父の異端を 受けつぎて

かんづばき やまねむ こお ふゆくさ ほおおちば きご  
寒椿、山眠る、氷る、冬草、朴落葉が季語である。

かずかず しつぱい こうれい  
数々の失敗を高齢のせいにして、つややかな  
は 葉かげから優しいお顔の椿の花が「お歳のせいでは  
ないのよ」と囁く。

わたし ふるさと しなの しず かえ やま たんざ む  
私の故郷は信濃。静まり返った山、端座して向か  
うと山が語りかけて来る。雪はあまり降らず、只寒い。  
そらす き きた せま れんざん  
空澄み切って、北アルプスが迫って来る。連山のあ  
なたにはかみがみす こども おも  
なたには神々が住むと、子供のころ思っていた。平成  
23年3月の東日本の地震と津波、流されて行く車、  
いえ きぎ ひと テレビの前立ちつくし、息をのむ  
ばかり。月も氷ると思った。

ふゆ くさ  
冬の草がコンクリートの僅かな隙間から頭をも  
たげている。その生命力の強さ、私もこの愛らしい  
ふゆくさ  
冬草のようでありたい。

わたし しょうがくせい ころ げこう わたし ま ちち まえ おお  
私は、小学生の頃、下校する私を待つ父の前で大  
きな声で読本を読むのが日課であった。その父が  
しんるい あいだ い あね しんるい  
親類の間ではよく云われぬ。姉は親類へよくお  
てつた で わたし こえ のかかった記憶がない。  
30センチもあろうか、縦横、大きな朴落葉が道を埋め  
ているのを見て、父がそこにいるように思えた。

はいく たねださんとうか おぎきほうさい  
俳句には、種田山頭火、尾崎放哉のように「有季  
ていけい」ではなく、季語がなく、ごしちご おんりつ しぼ  
定型」ではなく、季語がなく、五七五の音律に縛ら  
れない自由律俳句がある。

さんとうか く  
山頭火の句

わけていっても わけいっても あお やま  
分けて入っても 分け入っても 青い山

にご みず なが す  
濁れる水の 流れつつ澄む

ほうさい く  
放哉の句

せき をしても ひとり  
咳をしても 一人

ぼうし ゆき さしき も  
帽子の雪を 座敷まで 持って来た

さんとうか ほうふし おおじぬし いえ う めいじじゅうご  
山頭火は防府市の大地主の家に生まれ(明治十五  
ねん しこく まつやま いっそうあん ぼうつ しょうわじゅうごねん  
年)、四国・松山の「一草庵」にて没(昭和十五年)。

ごじゅうなさい わ せ だだいがく ちゅうたい むいちぶつ ほうろうそう こつじき  
五十七歳。早稲田大学を中退、無一物の放浪僧。乞食  
ゆえ くがで き く つく ため こつじき かれ せかい  
故、句が出来、句を作るため乞食が彼の世界であつた。

ほうさい とっとりけん う めいじじゅうごねん しょうどしま  
放哉は、鳥取県に生まれ(明治十五年) 小豆島・  
さいこうじ おく いん ぼうつ たいしやうじゅうごねん よんじゅういっさい  
西光寺の奥の院にて没(大正十五年)。四十一歳。

きゅうせいいちこう どうきやうていこくだいがく そつぎやう かいどう  
旧制一高から東京帝国大学を卒業、エリート街道  
を走った前半生と、ひたすら作句し乍ら各地を転々、  
るろう たび つか ほうさい しゅうく ばんねん さんねん  
流浪の旅に疲れるが、放哉の秀句はこの晩年、三年ほ  
どの間に生まれた。末期の眼で見た心象風景であつた。

やま てせん につぼりえきまえ どうかんやま よ おか うえ  
山の手線、日暮里駅前、道灌山と呼ばれる丘の上に  
ちようきゅうざんほんぎやうじ どうざん え どうじやうないひらかわぐち かい  
長久山本行寺がある。当山は江戸城内平河口に開  
そう ごひやくねん につぼり いちく さんびやくねん つきみでら  
創、五百年、日暮里に移築されて三百年、月見寺と  
もいわれる俳句の寺である。境内に、山頭火と一茶の  
くひ さんとうか しょうわしよき よ  
句碑がある。山頭火の昭和初期に詠んだ句は

ほつとつきがある とうきやう き  
ほつと月がある 東京に来て

いっさい く  
一茶の句は

かげらう どうかん ものみづか  
陽炎や 道灌どのの 物見塚

この句は、いっさい ぶんかはちねんしやうがつ ほんぎやうじ くかい  
この句は、一茶が文化八年正月、本行寺の句会で  
の作句。いっさい どうかんこう ゆえん よ ものみづか  
一茶が道灌公との由縁を讀んでいる物見塚  
は、おたどうかん きず とりで あと いっさい  
は、太田道灌が築いた砦の跡である。一茶はしばし  
ほんぎやうじ きしゆく じゅうしよく にじつ せきやうしゅういんにちかん はいごう  
ば本行寺に寄宿、住職二十世境修院日桓(俳号  
いっぴやう きやう の りやうぎん かせん ゆうぐ まき  
一瓢)と興の興に、両吟で歌仙「夕暮れや」の巻  
さんじゅうろくく いちにち よ  
三十六句を一日で詠んでいる。

\* 昨年(2022年)の4月号から始まった「俳句随想」の連載も  
この回で終了いたします。執筆していただいた  
あかぎ さんには深く感謝いたします。ありがとうございました  
赤木さんには深く感謝いたします。ありがとうございました  
いきました。(編集部)

かんようく こうよう  
「慣用句の効用」

きんようよる わだやすひろ  
金曜夜ボランティア 和田泰弘

慣用句が重宝なのは、長たらしい説明をせずとも、短い一文が言いたいことを端的に代弁してくれるからでしょう。例えば、

「何を使うにしても、ちょっとずつ条件に合わないことがあるのよね」

「それって、『帯に短し襷に長し』ってことでしょ？」

というような具合に。

先日、A新聞の「ことばの広場」というコラムで、「下駄を履かせる」という慣用句について触れていました。T医大の、入試で男子に有利になるように加点した不正入試事件について、同じ新聞の別なコラムが「見えないゲタを男子全員にはかせていた」と表現していたことを伝えています。「下駄」は、歯の高さを調節できるので、そこから「本来の数量にある数量を加えて、実際の全体の数量を実際より多く見せる」（大辞林）という意味の「下駄を履かせる」が生まれました。

日産の会長、ゴーン氏が逮捕されたとき、そのコラム欄では、ゴーン氏の欲深さを説明するのに「スイカ二つを片手では持てない」という慣用句を充てていました。これは、ゴーン氏の育ったレバノンを始め中東で古くから伝わるものだそうです。中東のスイカは両手でも持てないくらいとてつもなく大きく、二つどころか、それ以上得ようとしたゴーン氏の欲を比喻したものです。日本でも欲深を戒める慣用句に、「二兎を追うものは一兎をも得ず」「虻蜂取らず」がありますね。

「一年の計は元旦にあり」。新年を迎え、決意を新たにされている方もいるでしょう。「今年こそは、断捨離を！」、『源氏物語』を完読」等々。自戒を込め、ゆめゆめ「三日坊主」にならぬように。



ゆうびんきょく  
「郵便局はどこですか？」-ある出来事から-

げつようごご さとうえいこ  
月曜午後ボランティア 佐藤英子

それまで住んでいた古いアパートから、住民全員がすぐ近くの新築アパートへ移転した時のことです。順番に引っ越すので、10月いっぱい毎日のように各引っ越し業者のトラックが出入りしていました。

そんなある日、その古い方のアパートの庭で、箆箆を抱えて階段を降りてきた男性に「郵便局はどこですか？」と声をかけられました。口調から外国人だとすぐわかりました。近くにトラックが止まってるし、彼も引っ越し業者の一人だと思ったのですが、「郵便局」という言葉に何とも奇妙な気がして、思わず「郵便局に何をしに行くのですか？」と聞き返していました。「郵便局ならH町駅の近くですけど…」。

すると男性は、「郵便局にこの荷物、持っていけと言われた」と答え、「え～、あの駅の近く、行くのですか?!」とがっかりした表情になりながらも駅のあり方角へ向かおうとしました。やっぱり何かおかしい、私は男性にもっと近づいていきました。よく見ると箆箆に粗大ゴミのシールが貼ってあり、その瞬間、ピンと来ました。

粗大ゴミなら、アパートの各階段下にある郵便受け（郵便箱）のそばに出しておけばいいのです。（そして、ゴミが重くて出せない人のために引っ越し業者が当日、ついでにその場所まで運んでくれていた。）

（ははあ、この人は恐らく、郵便受け、又はそれに似た郵便に関する言葉を言われたけど聞き取れなかったか、理解できず「郵便局」という日本語教科書で習ったかもしれない言葉に意識が直結したのだな）と解釈して、「郵便局ではなくて、郵便受けのあるここでもいいんですよ」と、私はその場所を教えました。男性はホッとした様子で箆箆を置くと、何度も頭を下げ、又、階段を駆け上がって行きました。

# みんなの広場

よかったと思うと同時に、私はせつない気持ちに襲われました。なぜ、その外国人男性がそんな誤解をしたのか、想像できたからです。

引っ越し業者のほとんどの会社が今、人手不足で、日本人リーダーの下に外国人アシスタントが二名位という組み合わせで作業に当たることが多いそうです。私が頼んだ業者もそうでした。そして、日本人リーダーの指示でリーダー自身も外国人アシスタントも、それこそ飛ぶような勢いで荷物を運び出していきました。それでも、私の所に来た日本人リーダーは、電灯の着脱のやり方とか、ちょっとしたことを教えながらやっていたのですが、中には、一言伝えるだけでアシスタントが聞き返すと、怒鳴りつけるような人もいて、「見ていて気分が悪かった」と何人かの近隣住民が話してくれました。

収益を上げるために時間に追われる、殺気立った作業現場では、あの男性も「郵便受けの所に」と言われても、聞き返せなかったのだと想像できます。

技能実習生、外国人労働者の受け入れ問題が今、大きく取り上げられていますが、私が身近で見たこの出来事からだけでも、日本語の問題、労働内容、職場の日本人との人間関係などの課題が解決されないままにあるのがわかります。

又、介護従事者も外国人で、と政府は期待していますが、介護を学んでいるアジアの学生はカナダ、オーストラリア、ヨーロッパで働くことを志望している、日本に来たがる人はほとんどいないという報道も見ました。(NHK「国際報道2018」)。(難しい日本語を学んで日本で働くメリットがなく、SNSで日本の介護現場の過酷さが広まっているそうです。)  
「みんな日本で働きたがっているんだから、呼べば来る、というような思い込み、傲りが日本政府にあるのではないか」その番組の取材記者の言葉が耳に残っています。

日本政府だけでなく、私たちも同様に安易に捉えている面がないか？「外国人労働者」という一語でくくる前に、みんなかけがえのない人格を持ったひとりひとりなのだということを忘れてしまっていないか？技能実習生の酷い実態を伝える報道を見るたびに、「どうかこのまま、日本を嫌いにならないで」と祈るような気持ちになるのですが…。



## おんせいこうしゅうかい 「音声講習会のお知らせ」

昨年<sup>さくねん</sup>に続き<sup>つづ</sup>、今年<sup>ことし</sup>も中村<sup>なかむらの</sup>則子<sup>りこそんせい</sup>先生<sup>おんせい</sup>による<sup>こう</sup>音声<sup>おんせい</sup>の講習<sup>こうしゅうかい</sup>会<sup>かい</sup>を下<sup>か</sup>記<sup>き</sup>の要領<sup>ようりょう</sup>で開催<sup>かいさい</sup>いたします。これまで<sup>これまで</sup>は、日本語<sup>にほんご</sup>の音声<sup>おんせい</sup>の仕組み<sup>しく</sup>を理解<sup>りかい</sup>する初歩<sup>しよほ</sup>的な講習<sup>こうしゅうかい</sup>でしたが、今回<sup>こんかい</sup>は、それに加<sup>くわ</sup>え日本人<sup>にほんじん</sup>が気づかない<sup>きづかない</sup>日本語<sup>にほんご</sup>の発音<sup>はつおん</sup>と、その音声<sup>おんせい</sup>の作られ方<sup>つくりかた</sup>など、さらに一歩踏<sup>いっぽ</sup>み込<sup>みこ</sup>んだ音声<sup>おんせい</sup>の講座<sup>こうざ</sup>となります。是非<sup>ぜひ</sup>、皆<sup>みな</sup>さまの参加<sup>さんか</sup>をお待ち<sup>まち</sup>しております。

テーマ：「日本語<sup>にほんご</sup>の発音<sup>はつおん</sup>について知ろう<sup>し</sup>」  
～「ざっし<sup>ざっし</sup>（雑誌）」、「たいざい<sup>たいざい</sup>（滞在）」の「ざ」  
は同じ音<sup>おな</sup>？日本人<sup>おんじん</sup>が気づかない<sup>きづかない</sup>日本語<sup>にほんご</sup>の発音<sup>はつおん</sup>～

講師<sup>こうし</sup>：中村<sup>なかむらの</sup>則子<sup>りこそんせい</sup>先生<sup>とうきょう</sup>（東京外大非常勤講師<sup>いひじょうきんこうし</sup>）

日時<sup>にちじ</sup>：2月16日<sup>がつ</sup>（土<sup>ど</sup>）午後<sup>ごご</sup>2時<sup>じ</sup>～4時<sup>じ</sup>

場所<sup>ばしょ</sup>：サロン3階<sup>だい</sup>・第2会議室<sup>かいぎしつ</sup>（学習会<sup>がくしゅうかい</sup>の部屋<sup>へや</sup>）

対象<sup>たいしょう</sup>：サロン・ボランティア<sup>がくしゅうかい</sup>と学習者<sup>がくしゅうかい</sup>

★申し込み<sup>もうしこみ</sup>と詳しいことはサロン事務局<sup>じむきょく</sup>まで。



# 「農工大・サロン連携講演会のお知らせ」

## ～編集後記～

現在、東京農工大学では300名以上の留学生が学んでおり、その多くが府中で暮らしています。彼らが「留学生」としてだけでなく、「府中市民」として生活していくために、地域や大学には何ができるでしょうか。講演会では、留学生の生活の様子を交えながらみなさんと話し合ってみたいと思います。基調講演のあとに、農工大の先生方を交えてサロンボランティア、市民の方々と意見交換会の場も設けてあります。是非、皆さまの参加をお待ちしております。

基調講演会：講師・田崎敦子氏（東京農工大学グローバル教育院准教授・博士）

テーマ：「留学生と地域交流：留学生はどのように府中市民になっていくのか？」

日時：2月23日（土）午後2時～4時

場所：サロン3階・第2会議室（学習会の部屋）

対象：サロン・ボランティアと学習者、一般市民

★参加申し込みと詳しいことはサロン事務局まで。

2019年、明けましておめでとうございます。

「くろすろ一ど」は1997年11月に創刊され、今年で22回目の新年号を迎えることができました。ここまですで発行を続けてこられたのは、これまでに編集に携わられた先輩諸氏の努力と、ボランティアと学習者の皆様、そして市の担当の方々のご協力があったからこそと実感しております。これからも、サロンの活動をいっそう円滑に進めていくために、ボランティアと学習者とのよき対話の場として「くろすろ一ど」の編集を進めていく所存です。会報部会スタッフ一同、それに向かい邁進して参りますので、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

（編集長・和田）

【編集】会報部会/和田、堤林、岩城、末田

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

